

提案団体名： 一般財団法人計量計画研究所

○提案内容

(1) 自社の保有するスマートシティの実現に資する技術と実績等
 ※スマートシティの実現に資する技術については、別紙3の(1)～(7)の技術分野への対応を記載ください

技術の概要・実績等	技術の分野
<p>●スマート・プランニング®のためのシミュレーション技術 <<概要>> ・弊社は、人の移動のデータをもとに、施設配置(図書館、医療施設、福祉施設など)・空間形成・交通施策(歩行空間形成、駐車場配置、新たな交通手段の導入など)の計画を検討するためのシミュレーション構築技術を保有しています。 ・このシミュレーションを用いることで、施設配置・空間形成・交通施策の実施効果を、立ち寄り箇所数、中心市街地滞在時間、歩行距離などの指標で評価することができ、評価結果をもとに施設等の適した配置を検討することが可能です。 ・安価で実施が容易な取り組みについては、取り組みを実行し、ビッグデータ等で効果を検証し、改善する、というPDCAが適しますが、要する費用が大きく、合意形成が必要な取り組み(施設配置、交通施設整備、道路空間の再編など)のプランニングの場面においては、シミュレーション等による施策の効果検証が求められます。 ・なお、現在、都市圏規模の人の移動データを用いた交通・活動シミュレーションの構築にも注力しており、ビッグデータ等から得られる人の流動の背後にある行動原理をモデル化し、施設整備や交通施策の評価に活用できるように取り組んでいます。</p> <p><<実績>> ・弊社は、交通行動理論に基づく都市圏レベルの交通シミュレーションを長年手がけ、ノウハウの蓄積があります。 ・歩行回遊シミュレーションについては、国土交通省都市局都市計画調査室業務において政令指定都市の中心部を対象としたケーススタディを実施し、取り組み実施の効果の検証を行った実績を有しています。</p>	<p>(2)</p>

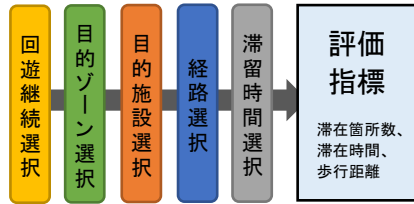


図 シミュレーションの概略



図 施策実施の評価イメージ

※弊社実績

(2) (1)の技術を用いて解決する都市・地域の課題のイメージ
 ※課題については、別紙3の(ア)～(シ)の課題分野への対応を記載ください

解決する課題のイメージ	課題の分類
<p>●中心市街地における移動環境を改善します ・本シミュレーションを活用することで、中心市街地内の施設間の移動環境を改善するための道路交通施策や公共交通施策等を定量的に検討することができるようになり、中心市街地の回遊性向上につながります。</p> <p>●中心市街地における賑わい形成を支援します ・中心市街地内の回遊性が向上することは、中心市街地の魅力向上につながると考えられます。これにより、賑わいのある中心市街地の形成に寄与すると考えられます。 ・また、シミュレーションは移動する個人の属性を考慮可能であり、観光客の回遊性を高める施策の検討も可能です。</p> <p>●歩きやすい健康なまちづくりを実現します ・徒歩の回遊性が高まり、歩きやすい中心市街地が形成できれば、高齢者等の健康づくりにも好影響を及ぼすと考えられます。</p>	<p>(ア) (オ) (カ)</p>
<p>(3) その他 ・地方自治体、交通事業者等との連携による複数の取り組みを推進中</p>	

○部局名・担当者・連絡先(電話及びメール)

部局名	担当者	連絡先(電話)	連絡先(メール)
都市地域・環境部門	石神 孝裕	03-3268-9687	tishigami@ibs.or.jp

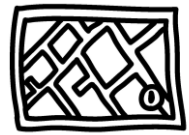
スマートシティにおける スマート・プランニング®の活用イメージ

まちなかの回遊を促す様々な取り組み



施設配置

(商業施設、高齢者施設など)



歩行空間形成

(歩道拡幅、整備など)



駐車場配置

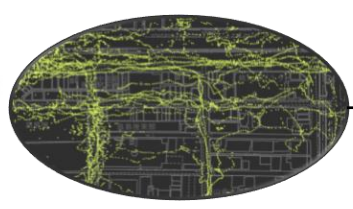
(駐車場、駐輪施設など)



その他

(イベントなど)

人の移動軌跡のビッグデータ等



構築

001001
010010
100100
001001

歩行回遊 シミュレータ

取り組みを
インプット

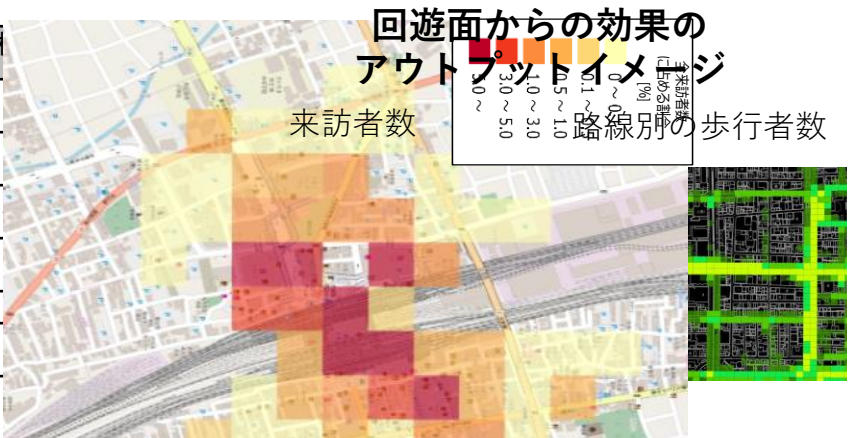
効果を
アウトプット

取り組みの効果 (評価指標)

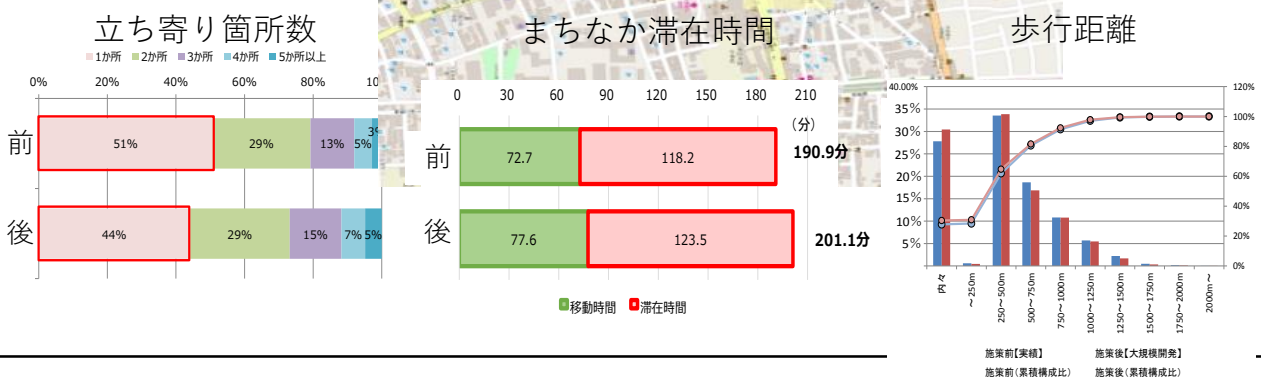
指標例

評価の視点	評価指標
賑わい	来訪者数
	滞在時間
	立ち寄り箇所
移動の利便性	移動時間
健康まちづくり	歩数
	歩行時間

回遊面からの効果の アウトプットイメージ



まちに波及する効果のアウトプットイメージ



実施前【実績】 実施後【大規模開発】
 実施前【業種構成比】 実施後【業種構成比】